

令和 5 年度 大館曲げわっぱ 150 年の森育成事業に参加

令和 5 年 7 月 19 日(水)、大館市山瀬ダム周辺にある大館市有林において、大館市主催の「大館曲げわっぱ 150 年の森育成事業」が開催され、当署職員 3 名が参加しました。本事業は、天然秋田杉に替わる秋田杉人工林の育成を行い、大館市が誇る伝統工芸品「大館曲げわっぱ」を次世代へ継承していくとともに、ふるさとキャリア教育の一環として小学生が植栽や除間伐等の体験を通し、地元の伝統文化と森林環境保全・保護を大切に思う心を育むことを目的として行われており、今回は地元の早口小学校と山瀬小学校 6 年生児童計 38 名が「下刈り体験」を行いました。開会式では主催者の大館市からの挨拶に続き、使用する道具の使い方や下刈り方法などについて説明を行いました。



大館曲げわっぱ 150 年の森



児童に下刈り方法を説明

開会式終了後、9 班に分かれていよいよ下刈り体験。この日は曇り空でしたが湿度が高く、児童たちはタオルで汗を拭きながら一生懸命雑草や雑木を刈り払っていました。

下刈り体験終了後は場所を移動して森林教室を行い、当署職員から「林業は 100 年単位で木を育てる循環可能な仕事である」ことや、「森林の循環利用と SDGs との関係について」などを説明し、児童たちは真剣に話を聞いてくれました。

今回の下刈り体験と森林教室を通じて、未来を担う子供たちが地元の伝統文化と木を育てることの大切さや、森林・林業の役割などについて少しでも理解を深めてもらえたのではないかと思います。



刈込バサミを使って下刈り体験



森林教室の様子